

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
0141	グアナーゼ <small>3B125-0000-023-271</small>	血清0.5	1	冷蔵 (1週)	3~4	35 生I	酵素法	U/L (37°C) 0.4~1.1	※01	急性肝炎 慢性肝炎 肝硬変 薬物中毒 白血病
3282	アンギオテンシン I 転換酵素 (ACE) <small>3B325-0000-023-271</small>	血清0.5	1	冷蔵	2~4	140 生I	笠原法 (比色法)	U/L 7.0~25.0	血漿不可 ※01	サルコイドーシス 甲状腺機能亢進症 ゴーンシエ病 珪肺症 クロン病 肺癌
3522	ADA (アデノシンデアミナーゼ) <small>3B130-0000-023-271 3B130-0000-042-271</small>	血清0.5	1	冷蔵 (1週)	3~4	32 生I	酵素法	U/L 4.8~23.1	溶血は高値の影響がありません ※01	肝・胆道疾患 急性白血病 悪性リンパ腫 骨髄腫
2372		胸水0.5	2	冷蔵 (1週)	3~4		酵素法	U/L	下記参照 ※01	
0112	リゾチーム (ムラミダーゼ) <small>3B255-0000-023-292 3B255-0000-001-292</small>	血清0.3	1	冷蔵 (1週)	3~4		比濁法	μg/mL 5.0~10.0	※01	単球性白血病
0113		尿1.0	2	冷蔵	3~6			0.0		
3269	リパーゼ <small>3B180-0000-023-271</small>	血清0.5	1	冷蔵 (1週)	1~3	24 生I	酵素法	U/L (37°C) 17~57	※01	急性膵炎 膵管閉塞
2371	トリプシン <small>3B185-0000-023-024</small>	血清0.4	1	冷蔵 (3週)	4~6	189 生I	EIA法	ng/mL 100~550	※06	急性膵炎 慢性膵炎 膵癌
1025	N-アセチル グルコサミニダーゼ (NAG) <small>3B330-0000-001-271 3B330-0000-023-271</small>	尿5.0	2	冷蔵	1~2	41 尿糞	合成基質 比色法	U/L 7.5以下		腎不全 ネフローゼ症候群
3486	アルカリ ホスファターゼ (ALP) (IFCC) <small>3B070-0000-023-275</small>	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生I	IFCC対応法	U/L 38~113		肝・胆道疾患 骨疾患 甲状腺機能亢進症 悪性腫瘍
1012	AST (GOT) <small>3B035-0000-023-272</small>	血清0.3	1	冷蔵	1~2	17 生I	JSCC標準化 対応法	U/L 9~38		肝疾患 心筋梗塞 閉塞性黄疸
0151	ミトコンドリアAST (m-GOT) (m-AST) <small>3B040-0000-023-272</small>	血清0.5	1	冷蔵	3~5	49 生I	プロテアーゼ法	U/L 7以下	※02	急性肝炎 慢性肝炎 劇症肝炎 肝癌 アルコール性肝障害
1013	ALT (GPT) <small>3B045-0000-023-272</small>	血清0.3	1	冷蔵	1~2	17 生I	JSCC標準化 対応法	U/L 5~39		肝・胆道疾患 心筋梗塞 閉塞性黄疸
3487	LD (LDH) 乳酸脱水素酵素 (IFCC) <small>3B050-0000-023-279</small>	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生I	IFCC 対応法	U/L 124~222		急性肝炎 うっ血性心不全 心筋梗塞 悪性腫瘍 白血病 悪性貧血 溶血性貧血
1017	γ-GT (γ-GTP) <small>3B090-0000-023-271</small>	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生I	JSCC標準化 対応法	U/L M : 84以下 F : 48以下		胆汁うっ滞 アルコール性肝障害 閉塞性黄疸 急性肝炎 慢性肝炎 肝硬変 肝癌

[2372] ADA(胸水)の参考値 単位：U/L

結核性胸膜炎症例	50.4~154.6
肺癌症例	10.9~36.1
心不全等上記以外の症例	3.2~8.8



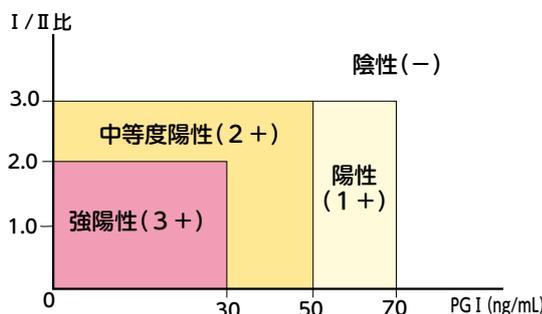
項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
酵素関連物質	1016 ロイシンアミノペプチダーゼ (LAP) 3B135-0000-023-271	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11生I	L-ロイシル-pニトロアニリド基質法	39~77 ^{U/L}		肝胆道疾患 急性肝炎 肝癌 肝硬変 急性膵炎
	1015 コリンエステラーゼ (ChE) 3B110-0000-023-272	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11生I	JSCC標準化対応法	M : 235~494 F : 196~452 ^{U/L}		ネフローゼ症候群 糖尿病 高血圧 甲状腺機能亢進症 慢性肝炎 肝硬変 貧血 家族性コリンエステラーゼ欠損症
	1018 クレアチンキナーゼ (CK) 3B010-0000-023-272	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11生I	JSCC標準化対応法	M : 40~220 F : 30~190 ^{U/L}		進行性筋ジストロフィー症 多発性筋炎 心筋梗塞
	1020 アミラーゼ (AMY) 3B160-0000-023-271 3B160-0000-001-271	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11生I	JSCC標準化対応法	37~124 ^{U/L}		急性膵炎 慢性膵炎 膵管閉塞 マクロアミラーゼ血症 唾液腺疾患 耳下腺炎
	1021	尿2.0	2	冷蔵	1~2		JSCC標準化対応法	48~740 ^{U/L}		
	1279 ペプシノゲン 3B339-0000-023-062	血清0.3	1	冷蔵 (4週)	2~3		LA法	下記参照		萎縮性胃炎 胃癌 消化性潰瘍 ※06
	2548 リポ蛋白リパーゼ (LPL) 3F160-0000-022-023	血漿0.3 速やかに冷却遠心	19	(分離後)凍結 (1ヶ月)	3~9	219 ^① 生I	ELISA法	164~284 ^{ng/mL}	*1	家族性高リポ蛋白血症I型 アポCII欠損症 家族性LPL欠損症 ※02
	1024 アルドラーゼ (ALD) 3B100-0000-023-272	血清0.5	1	冷蔵	2~3	11生I	UV法	2.7~7.5 ^{U/L (37℃)}		筋疾患 脳卒中 急性肝炎 慢性肝炎 再生不良性貧血 心筋梗塞 ※01
1324 膵ホスホリパーゼA ₂ (膵PLA ₂) 3B192-0000-023-005	血清0.3	1	(分離後)絶凍 (21日)	3~5	204生I	RIA固相法	130~400 ^{ng/dL}		急性膵炎 慢性膵炎 膵癌 ※02	

①リポ蛋白リパーゼ (LPL) は、高トリグリセライド血症及びLPL欠損症が疑われる場合の鑑別のために測定した場合に限り算定できる。また、ヘパリン負荷が行われた場合、投与したヘパリンは区分番号「D500」の薬剤として算定できるが、注射料は算定できない。

*1 早朝空腹時にヘパリンを体重1kgあたり30単位静注し15分後に指定の容器に採取し、4℃で遠心分離後、上清の血漿を凍結保存にてご提出ください。EDTA血漿は避けてください。基準値につきましては上記採取条件に基づき設定しております。

[1279] ペプシノゲン(PG)による胃粘膜萎縮度の判定基準

判定	測定値	
	PG I (ng/mL)	I / II比
強陽性	3+	30以下 かつ 2.0以下
中等度陽性	2+	50以下 かつ 3.0以下
陽性	1+	70以下 かつ 3.0以下
陰性	-	上記条件以外



項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	陽性判定基準	提出条件 ・備考	検査目的および異常値 を示す主な疾患名
3535	ABC分類 (LA) (胃がんリスク層別化 検査) 3B347-0000-023-920	血清0.6	1	冷蔵	2~4		ラテックス 凝集比濁法	〈H.ピロリ抗体〉 10以上 (U/mL) 〈ペプシノゲン〉 (陽性): PG I 70.0以下 (ng/ mL) かつPG I/II 比が3.0以下 (中等度陽性): PG I 50.0以 下 (ng/mL) かつ PG I/II比が3.0以 下 (強陽性): PG I 30.0以下 (ng/ mL) かつPG I/II 比が2.0以下	ピロリ菌の 除菌治療歴 がある場合 はABC分類 の対象外 (E 群) となり ます。 *33	胃がんの危険度

[3535] ABC分類 (LA) (胃がんリスク層別化検査) 報告書

ABC分類 (ペプシノゲン, ヘリコバクター・ピロリ抗体による) 検査報告書

コードNo.

医院コード	施設名		
氏名		性別	年齢
カルテNo.			
コメント			

受付No.	
受診日	年 月 日
受付日	年 月 日
報告日	年 月 日

ヘリコバクター・ピロリ抗体 (LA) 検査結果	
測定値	U/mL
判定	
判定基準	10未満U/mL

ペプシノゲン検査結果	
PG- I	ng/mL
PG- II	ng/mL
PG I / II 比	
判定	

[ABC分類の判定基準]

あなたの ABC分類判定	ABC分類		ヘリコバクター・ピロリ抗体	
		(-) / (1+)~(3+)	10未満(-)	10以上(+)
	ペプシノゲン	(-) / (1+)~(3+)	A群 / D群	B群 / C群

〔注〕ペプシノゲンの結果により、ABC分類が「判定不能」となる場合があります。

ABC分類 判定結果の解説

A群		おおむね健康的な胃粘膜です。胃の病気になる危険性は低いと考えられます。ただし、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往のある方が含まれます。一度は内視鏡検査などの画像検査を受けることが理想的です。	B群		少し弱った胃粘膜です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。少数ながら胃がんの可能性もあります。内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をおすすめします。
D群		萎縮が非常に進み、かなり弱った胃粘膜です。胃がんなどの病気になるリスクがあります。ピロリ菌の感染診断をおすすめします。必ず専門医療機関で内視鏡検査などの診断を受けましょう。	C群		萎縮の進んだ弱った胃粘膜です。胃がんなどの病気になりやすいタイプです。定期的な内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をおすすめします。

E群 (除菌群)

ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌後の方は、除菌判定の結果に関わらず、E群 (除菌群) となります。定期的に内視鏡検査を受診しましょう。E群は除菌により胃がん発生率が低下するという報告もありますが、決して0%になるわけではありませんので、除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。

ABC分類対象外

以下に該当する方は正しく判定されない場合があります。

- ・上部消化管疾患治療中の方
- ・胃酸を抑える薬を服用中の方
- ・胃切除後の方
- ・腎不全の方
- ・ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌治療を受けた方

1 プレイン容器



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
酵素アインザイム	3492 LD(LDH)アインザイム (IFCC) 3B055-0000-023-238	血清0.3	1	室温 (3日) 凍結不可	3~5	48生I	アガロース膜電気泳動法	LD1: 20.0~31.0 % LD2: 28.8~37.0 LD3: 21.5~27.6 LD4: 6.3~12.4 LD5: 5.4~13.2 U/L 総活性値 120~245 LD1/定量値 24~76 LD2/定量値 35~91 LD3/定量値 26~68 LD4/定量値 8~30 LD5/定量値 6~32	溶血のご依頼は避けてください。(溶血の場合LD1, 2,3の上昇が考えられます。)血液凝固後できるだけ速やかに血清分離。凍結は厳禁(LD4, LD5の損失防止) 又、低温失活の影響を受けますので4℃以下の保存は避けてください。 ※01	LD1: 心筋梗塞 悪性貧血 溶血性貧血 再生不良性貧血 LD2: 白血病 悪性腫瘍 悪性リンパ腫 LD3: 4: 肺梗塞 肺癌 悪性腫瘍の肺転移・肝転移 LD5: 急性肝炎 肺癌
	3491 ALPアインザイム (アルカリホスファターゼアインザイム) (IFCC) 3B080-0000-023-238	血清0.3	1	必ず冷蔵	3~5	48生I	アガロース膜電気泳動法	ALP1: 0.0~5.3 ALP2: 36.6~69.2 ALP3: 25.2~54.2 ALP4: 0.0 ALP5: 0.0~18.1 ALP6: 0.0	% ※01	ALP1: 閉塞性黄疸 慢性肝炎等 ALP2: 慢性腎不全 肝・胆道疾患 ALP3: 骨疾患 骨腫瘍 副甲状腺機能亢進症 ALP4: 妊娠末期 ALP5: 血液型OおよびB型分泌型肝硬変 ALP6: 濃縮性大腸炎の活動期 関節リウマチ
	3263 アミラーゼアインザイム 3B165-0000-023-233	血清0.3	1	必ず冷蔵	3~5	48生I	アガロース膜電気泳動法	P/S比: 0.19~1.79 P: 15.7~64.0% S: 36.0~84.3%	S: 唾液腺由来 P: 膵由来	高アミラーゼ血症の鑑別 P型増加: 急性膵炎 慢性膵炎増悪期 S型増加: 唾液腺疾患 腎不全 肺癌 (マクロアミラーゼ産生腫瘍) 卵巣疾患
	3264 アミラーゼアインザイム(尿) 3B165-0000-001-233	尿1.0	2	必ず冷蔵	3~5		アガロース膜電気泳動法	P/S比: 0.63~4.65 P: 38.7~82.3% S: 17.7~61.3%	※01	
	4617 P型アミラーゼ定量 3B175-0000-023-271	血清0.6	1	冷蔵	2~4		免疫阻害法	50以下	U/L ※33	急性膵炎
	3265 CKアインザイム 3B025-0000-023-233	血清0.3	1	(分離後) 凍結 (4日)	3~5	55生I	アガロース膜電気泳動法	BB(CK1): 0~2 % ALB: 0~9 MB(CK2): 0~6 MM(CK3): 87~98 U/L 総活性値 M: 50~230 F: 50~210 BB/定量値 M: 0~5 F: 0~4 MB/定量値 M: 0~14 F: 0~13 MM/定量値 M: 44~225 F: 44~206	MM: 骨格筋由来 MB: 心筋由来 BB: 脳・平滑筋由来 ※01	心筋梗塞発作後の病態把握 進行性筋ジストロフィー症 皮膚筋炎 多発性筋炎 腫瘍性疾患 (胃・前立腺・肺など)
5409 CK-MB 3B015-0000-023-051	血清0.5	1	必ず冷蔵	1~2	90生I	CLIA法	5.0以下	ng/mL	心筋梗塞発作後の病態把握 進行性筋ジストロフィー症 皮膚筋炎 多発性筋炎	

1 プレイン容器



2 滅菌スピッツ



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
生体色素検査	1001 総ビリルビン (T-Bil) <small>3J010-0000-023-271</small>	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生I	バナジン酸酸化法	0.2~1.2 mg/dL		肝炎 肝・胆道疾患 肝細胞性黄疸 閉塞性黄疸 溶血性黄疸
	1002 直接ビリルビン (D-Bil) <small>3J015-0000-023-271</small>	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生I	バナジン酸酸化法	0~0.4 mg/dL		
	0525 δ-アミノレブリン酸 <small>3J075-0000-001-204</small>	尿1.0	35	必ず遮光冷蔵	4~6	109 尿糞	HPLC法	mg/L	※02	急性間欠性ポルフィリン症 異型ポルフィリン症 鉛中毒 肝性コプロポルフィリン症 骨髄性ポルフィリン症
	0528 ウロポルフィリン (尿) <small>3J050-0000-001-204</small>	尿2.0	35	必ず遮光冷蔵	4~7	105 尿糞	HPLC法	36以下 μg/gCr	※02	アルコール性肝硬変 甲状腺機能亢進症 ポルフィリン尿症 白血病 各種貧血 ホジキン病 鉛中毒
	5228 コプロポルフィリン (赤血球) <small>3J040-0000-019-204</small>	血液1.5	19	必ず遮光冷蔵	8~12	210 生I	HPLC法	1以下 μg/dL RBC	凍結不可 ※02	骨髄性ポルフィリン症 肝性ポルフィリン症 ポルフィリン尿症 各種貧血 鉛中毒
	0526 コプロポルフィリン (尿) <small>3J040-0000-001-204</small>	尿2.0	35	必ず遮光冷蔵	4~7	131 尿糞	HPLC法	170以下 μg/gCr	※02	
2246 プロトポルフィリン (赤血球) <small>3J055-0000-019-204</small>	血液1.5	19	必ず遮光冷蔵	4~10	272 生I	HPLC法	30~86 μg/dL RBC	凍結不可 *1 ※01	骨髄性プロトポルフィリン症 鉛中毒 鉄欠乏性貧血 溶血性貧血 鉄芽球性貧血	

* 1 鉛健康診断の場合は別項目 (赤血球遊離プロトポルフィリン) になります。52ページを参照ください。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
3281	シスタチンC 3C016-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵	2~4	115 ^① 生I	LA法	mg/L M: 0.58~0.87 F: 0.47~0.82	※01	腎機能低下 腎不全 (高度上昇)
4976	推算GFRcys (eGFRcys)						計算法※ (血清シスタチンC、年齢、性別から推算式で算出)	mL/min/1.73m ²	血清シスタチンCと同時依頼の場合にのみ結果報告いたします。性別・年齢を明記。18歳未満は換算不可。	糸球体濾過量の推定
4962	CCr (Cockcroft-Gault推定式) 8A020-0000-023-919						計算法※※ (血清クレアチニン、体重、年齢、性別から推参式で算出)	mL/分	血清クレアチニンと同時依頼の場合にのみ結果報告いたします。体重・年齢・性別を明記。	糸球体腎炎 腎硬化症 尿路閉塞 うっ血性心不全
0122	インドシアニングリーン (停滞率) (ICG-R) 8A010-0000-023-271	各血清 1.5	1	遮光 冷蔵	1~2	100 (生体検査料) *1	比色法	15分: 0~10%	採取方法は下記参照	肝炎 肝硬変症
0140	インドシアニングリーン (消失率) (ICG-K) 8A011-0000-098-271	各血清 1.5	1	遮光 冷蔵	1~2	150 (生体検査料) *1	比色法	0.168~0.206	採取方法は下記参照	
0183	PFD (PABA排泄率) 【膀胱機能テスト】 8A090-0000-098-271	尿各3.0	2	冷蔵	3~4	100 (生体検査料) *1	比色法 (DACA法)	% 6時間排泄率 73.4~90.4	服用から6時間まで全量蓄尿 尿量記録服用前と6時間後の2本検体必要 ※01	慢性膀胱炎 膀胱癌

- ①ア シスタチンCは、EIA法、ラテックス凝集比濁法、金コロイド凝集法又はネフェロメトリー法により実施した場合に限り算定できる。
イ シスタチンCは、尿素窒素又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。ただし、ペントシジンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

*1 検査に伴って行った注射、検体採取、検体測定及びエックス線透視の費用は、全て所定点数に含まれるものとする。

※日本腎臓学会より公表された日本人のeGFRcysの推算式

$$eGFRcys (mL/min/1.73m^2) = (104 \times \text{血清シスタチンC値}^{-1.019} \times 0.996^{\text{年齢}}) - 8 \text{ (男性)}$$

$$eGFRcys (mL/min/1.73m^2) = (104 \times \text{血清シスタチンC値}^{-1.019} \times 0.996^{\text{年齢}} \times 0.929) - 8 \text{ (女性)}$$

※※CCr (Cockcroft-Gault推定式)

$$CCr (mL/分) = (140 - \text{年齢}) \times \text{体重} / (72 \times \text{血清クレアチニン}) \text{ (女性は} \times 0.85)$$

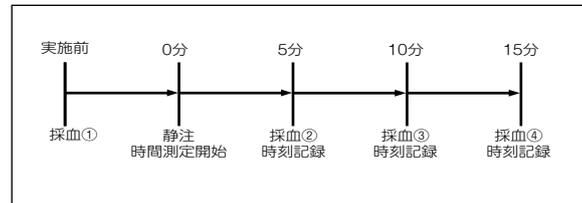
■インドシアニンググリーン試験 (ICG)

1. 早朝空腹時に採血3mL…①
2. ジアグノグリーン25mgを注射用蒸留水5mLに溶かし体重10kgにつき1mLを約30秒かけて静注。(時間測定開始)
3. 静注開始後、5分ごとに3mL採血を3回。…②③④

注意) 早朝空腹時に実施、検査終了まで安静仰臥がよい。採血は、注射と反対側の腕からおこなう。検体は遮光する。

提出) 消失率: 採血時間を明記した容器①②③④の4本

停滞率: 容器①の④の2本。



■PFD試験 (PABA排泄率) 【膀胱機能テスト】

(注意) 1. 消化酵素含有製剤、消炎酵素剤、鎮痛剤、利胆剤は検査前3日より投与を中止する。

(分類上同じ薬剤 (成分) も服用中止していただくこと。)

・影響を及ぼす薬剤

アミノアンチピリン、フェナセチン、塩酸プロカインアミド、パス、PL、スルピリン、センノサイド、アセトアミノフェン、アネステジン、INH、エトミドリン、p-ペリジジオアセチルアミノ安息香酸エチル、アンピシリン、アスピリン

2. 検査は通常、早朝空腹時に開始し、開始から3時間以上経過するまでは食物摂取は禁止。
3. 診断用医薬品 (ペンチロミド500mg/10mL) を250mL以上の水とともに服用させる。尿は完全排尿から6時間までの全尿を採尿する。
4. 蓄尿時間、尿量の記録とともに提出。蓄尿はよく混和し、その一部を提出。



1 プレイン容器



2 滅菌スπιツツ

